

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流を図り、家庭的な雰囲気の中でその人らしく、ありのままに安心して生活できる第2の我が家。笑顔、元気」と地域密着型サービスとしての理念となっている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼で唱和し、全職員で共有している。また、地域の催し物へ行事として予定を組んで積極的に参加している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関や各棟毎に理念を掲示している。たま、広報誌を村内の全家庭に配布し、入居時にも家族に説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の行事や活動に参加し交流を図っている。その際には、気軽に立ち寄ってくれるよう地域住民に個別に声をかけたりしている。	○ 施設の行事等を工夫して地域の一人となれるよう努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が行い、評価のねらいや活用方法を理解している。また、外部評価の結果を基に全職員で検討し、より良いケアができるよう取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催予定であったが、家族の参加ないため延期となっている。今後は家族等の理解を得られるよう努力し実施の予定している。	○ 民生委員、家族、地域住民との交流機会となるため、話し合いや意見を取り入れサービスの向上に活かしていきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村の担当者には、入退居時等連絡をしたり、広報誌や外部評価等を配布し、事業所を理解してもらえるよう努めている。また、利用者のサービスに当たり分からないことがあれば、相談しアドバイスしてくれる。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の外部研修に出席したり、事業所内の勉強会を開き全職員が制度の概要を理解できるよう取り組んでいる。	○ 現在は利用者はいないが、今後も研修参加や勉強会を継続していく。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修への参加や全職員での勉強会を行い、高齢者虐待防止関連法について学び、虐待のないケアに努めている。また、マニュアル作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所の理念や取り組みについて、利用者、家族に書面と口頭で説明し同意を得ている。また、質問や疑問がないか聞き、いつでも質問や疑問を受けつけることも説明している。退居の際は、退居理由等を説明し同意を得ている。また、退居先に情報提供したり、入院の利用者には家族と連絡取り、相談なども行っている。		
11 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入浴時に職員と1対1の時間を利用し、意見、不満、苦情がないか、ゆっくり話を聞けるよう働きかけている。また、それらを上手く表現出来ない場合には、言動により察して解消できるようにしている。出された意見、苦情等は申し送りをして職員で検討し対応するようにしている。それでも、解決出来ないときなどは家族へも連絡、相談		
12 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況については個別に随時家族に報告している。金銭については、出納帳にて管理記録し、領収書を添付し家族に報告している。職員の異動なども、あったときには報告している。		
13 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書等に明記し、苦情処理体制も整えている。また、玄関に意見箱や用紙を設置し、家族には挨拶や声がけをして、話しやすい雰囲気作りに努めている。	○	苦情ないが、あった場合には速やかに対処し、職員にも周知しケアの向上に活かしていきたい。
14 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム会議開催し、職員からの意見等を聞く機会を設けている。出された意見は検討し、反映させている。	○	発言・提案の場と認識していない職員あり、認識出来るよう周知する。また、個別に話しができる機会を提案する。
15 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況にあわせ支援できる人員配置になっている。また、職員の急な休み等には公休の職員に出してもらう等調整している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者、職員ともに異動や離職により、利用者への影響が大きいことは理解している。異動や離職がある場合には、お別れ会や歓迎会を行い利用者のダメージを最小限にとどめるよう努めている。新しい職員には管理者及び職員が教育している。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護レベルにあわせた研修を全職員が受講できるように配慮している。研修は計画的に実施し業務に支障のないよう配慮している。受講後は報告書を作成し、伝達講習を行っている。	○	年間計画を立て実施する。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加することにより、他の同業者との交流の機会となっている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回の面談にて悩みやストレスを聞く機会を設けている。グループホームとしての飲み会等はないが、同グループの職員会にて企画し参加している。休憩時間は確保されているが、休憩場所はゆっくりできる場所となっていない。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は現場の状況や勤務状況を把握し、年2回の健康診断を実施している。労働基準法にそった労働条件となっており、就業規則も整備されている。さらに、資格取得にむけて奨励し資格手当も設けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新規の面談時には、家族や利用者の希望や身体状況を聞き、希望やニーズを把握するよう努め、受容により信頼関係を築けるように努めている。	○ 入居する前にも、連絡・相談できる事を説明している。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況や家族の相談内容によっては、利用可能な他のサービスも提案できるように努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面談時から家庭的な雰囲気での介護であることを説明し、自宅で使っていた物等の持ち込みを勧めている。また、家族・利用者に昔から行っていた趣味習慣や好み等を聞き、ケアに生かせるように努めている。さらに入居してから、どのように生活したいか聞き、それに添えるようなケアに努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の喜怒哀楽に共感し、個別に利用者に合わせて役割を持って頂き、職員と一緒に作業ができるような場面を提供し、共に学び共に支え合えるよう努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事にて家族にも参加して頂き、利用者・家族・職員と一緒に楽しみ、情報交換や思いを聞き共に支え合う関係作りに努めている。	○	長い間の家族関係や入居されるまでの家族の思いや本人の思いがあるため、共に支え合う関係が築けない家族もいるが、その思いに共感しながら色々提案し働きかけている。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族のこれまでの関わりや思い等を把握し、利用者の日々の暮らしぶりや受診の結果などを面会時や電話で報告し、電話での連絡では利用者にも知らせて家族との絆が途切れないように配慮している。また、疎遠になっている家族には機会をみて面会できるよう勧めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所である地域での行事やイベントに参加し、ふれあいの機会がもてるようにしている。また、個別にも希望ある時など、馴染みの人や場所に行けるよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の仲の善し悪しは理解し、また孤立しないよう配慮した対応したケアを提供している。日中、利用者が自由な場所で過ごしなが、おやつ時や食事時はみんなで食事したりお互いが支え合うような関係を作れるよう配慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス提供終了後も、家族からの相談を受けることを説明し、今後の相談にのり不安の軽減に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望・意向を入居時のアセスメントや面談時に把握できるように努めている。必要があれば、家族等から情報収集している。	○ アセスメントにはセンター方式を使っている。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族の面談時に把握できるように努めている。情報収集には利用者等のプライバシーに配慮している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの1日の過ごし方や心身状況を把握し、申し送り等で全職員把握している。また、利用者個々の有する能力を見極めケアにいかしている	○ 月1回の棟会議にて、職員にて話し合い統一したケアを心掛けている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく生活して頂くために、利用者の意向や気づきを十分に職員で話し合い、計画を作成している。また、必要に応じて家族等に気づきや意見を反映させ、個別的具体的なものになっている。	○ 棟会議で利用者の意向や気づきを話し合っ、日常のケアや計画に活用している。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月毎の見直しを行うと共に、利用者の身体状況の変化や利用者や家族の希望の変化ある時は、再アセスメントし新たなケアプラン作成している。	○ 定期的なケアプランとそれ以外のケアプラン作成時にも、その都度家族に説明し同意捺印してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画に沿った記録を残し、気づきや工夫に関しては申し送りノート等にて情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受信時の同行やドライブ等への外出支援等本人や家族の希望により行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアへの呼びかけは行い、民生委員の存在は把握している。消防立ち会いのもと避難訓練を行っている。保育所、小学校、中学校との交流図れている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて居宅のケアマネジャーと連絡を取りあい、利用者を支援できている。理容院と契約し2ヶ月に1度来所し、散髪してくれる。	○	利用者が出かけて散髪したいとの希望ある時は、職員付き添い行っている。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度や権利擁護を必要とする利用者ないが、包括支援センターと協力体制が取れている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	認知症専門医の治療は受けていない。	必要は感じるものの、距離的に遠く気軽に受診できる環境にないように感じる。
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	看護師の配置はないが、利用者の体調不良時に同グループの老健看護師に24時間気軽に相談できる体制となっている。	
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入居者が入院となっても、利用者や家族の希望により2週間以内であれば居室を確保できる体制となっている。状況に応じて早期退院に向け、家族・医療機関と連絡相談している。	
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化や終末期について対応できる体制となっていない。急変時については、家族にあらかじめ説明し救急搬送となる。	
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度化や終末期について対応できる体制となっていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	職員は利用者が転居する事に関して、ダメージを受けることを理解している。また、利用者が転居する場合は、家族等の協力を求め説明してもらうなど配慮している。プライバシーに配慮した上で利用するサービス事業者へ情報提供するなど、転居によるダメージや不安が軽減できるようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	プライバシーや自尊心に配慮に欠ける職員の声かけなどあり、注意していく必要がある。また、個人情報保護法取り扱いについても勉強会設け、概ね理解していると思われるが記録を広げていることがある。	○ 職員に対して随時声がけしたり、定期的に勉強会も必要と思われる。
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	職員は、日々の暮らしのなかで利用者の希望や関心事、嗜好を言葉だけでなく、表情や動作等で把握しようと努めている。また、自己決定能力の低い利用者には簡単な言葉などにより、二者択一で選択してもらうなど、利用者の意思決定能力にあわせている。	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	1人ひとりの生活リズムを大切にし、利用者の買い物・外出等の希望を叶えられるようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	全利用者は地元の理容院で行っているが、本人の希望があれば行けるよう用意がある。利用者の衣類は本人の好みで選んだり、おしゃれができるよう配慮している。衣類の乱れがあるときはさりげなく声がけしたり、なおしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は一括して管理栄養士が立てているが、職員は利用者の好みや苦手なもの等を理解し調理や盛り付けなどに配慮している。食事は利用者と職員が一緒に席につき、食事介助・食べこぼしへのサポートや会話をしながら食事をしている。利用者の能力や本人の意向により、準備や後片付けを行って貰っている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者はたばこや酒の希望ないため日常的に対応していないが、酒は行事などでは施設で用意し楽しめるように配慮している。おやつは、利用者が好むものを家族から用意してもらったり、生ものや悪くなりやすいものは、施設で預かり楽しんでもらえるよう支援している。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンやサインを概ね理解し、事前にトイレ誘導を行うなど、自立に向けて支援している。オムツ利用者の随時の見直しはしていないが、排泄時の誘導、失禁時の対応は羞恥心に配慮して行っている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴できる体制となっている。利用者の希望時希望時間に添えるように努めている。入浴しない日は足浴している。入浴しながら利用するには無理強いしないが、最低3～4日に1度入浴するよう勧めている。利用者個々の身体状況や健康面等を考慮し、長湯になりすぎないように配慮したり、適切な洗身や着脱の介助に努めてい		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者1人ひとりの生活リズムを大切に、眠れない利用者には原因を探りケアに努めている。また、必要に応じて医療機関と相談し眠剤の服用等について調整している。外出や訪問者等により疲れている様子見られるときは、十分に休めるよう配慮したり声がけしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望は、入居時からアセスメントにより把握している。日々の生活によりできる事できない事を見極め、役割を持ち個々の楽しみが生活の張り合いになるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設に小遣い程度を預かっているが、本人の能力や希望に応じて、家族とも相談して、お金を持ち小遣いとして使っている利用者もいる。職員は利用者が自ら金銭管理を行うことの重要性を理解し、普段は金銭管理を行っていない利用者に対しては、買い物等ではお金を払えるよう配慮している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や職員の人数、利用者の健康状態により難しい時もあるが、利用者の希望に添えるよう出かけている。後日になる場合は、職員と利用者で相談し決めている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別には対応していないが、行事企画で利用者と家族と一緒に出かけられる機会を設けている。	○	家族と相談しながら、個別に利用者の行ってみたい所や家族で過ごす機会を設けていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの電話や手紙をだすことは少ないが、希望がある時は手伝ったり、プライバシーに配慮し支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定していない。家族等の面会時には、声がけし居室へ案内しお茶や椅子を用意する等の落ち着いた過ごし方を配慮している。家族からの宿泊の希望は聞かれないが、申し出があれば食事や寝具などを提供する用意がある。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。また、マニュアルがあり職員は理解している。やむを得ず身体拘束を行うときは、家族に説明し同意を得る体制となっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。また、利用者の無断外出しそうなときは、見守りをしたり、付き添う等の支援を行っている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜、職員は利用者を見守りしやすい場所にいて、利用者の様子を把握している。日中、複数の職員がいる場合は、必ず声をかけ合い利用者を見守り安全に配慮している。監視カメラ等の使用はない。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者にあわせて、注意の必要な物の保管場所や方法があり、それに基づいて職員は管理し実行している。取り決めが利用者の状態にあわなくなったときは、随時検討している。危険物については、マニュアルに沿って取り扱っている。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのリスクマネジメントマニュアルがあり、ひやりハット・事故報告書が整備されている。定期的に勉強会が行われ、ひやりハット・事故が発生した場合には、報告書を作成し全職員で情報を共有し再発防止に努めている。報告書はいつでも見られるように決められた書棚に置いている。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昼夜の急変時、緊急時のマニュアルが作成されている。また、全職員が定期的に救命救急の訓練を受講し「普通救命講習」を終了している。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアル作成し、日中と夜間を想定した通報訓練・避難訓練を年2回実施し、年1回は消防の立ち会いのもと行っている。災害発生時に備えて、非常食を用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者1人ひとりに起こりうるリスクを、その都度家族に説明し対策方法も含め相談したり同意を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の既往歴等を把握し、毎日のバイタルチェックと体調不良の有無を観察している。利用者の変化やその兆候が見られた場合は、情報の共有が図られるよう申し送りをして、記録に残している。さらに、必要があれば医療機関に相談や受診等の対応を行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で出している「お薬の写真」等にて、薬の内容を把握している。飲み忘れや誤薬などないよう職員同士でチェックしている。内服薬の変更などは、速やかに申し送りや記録に残し全職員に周知している。服薬による症状の変化ある時は、記録に残し家族や医療機関に連絡相談している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因とその影響を理解してと思われる。施設独自のメニューではないため、食材やメニューの工夫はむずかしいが、個別に食事量のチェックや排便の有無、日中の活動量の調整や水分の摂取を勧める等により便秘の解消を図っている。下剤の使用や調整は医師に相談し行っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内のケアの必要性を職員は理解し、毎食後、利用者1人ひとりに合わせた口腔ケアの実施の為、声かけや介助等を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立作成されており、栄養バランスに配慮されたものとなっている。1日の総摂取カロリーの把握はできていないが、1日の食事摂取量・水分量を記録している。関連グループの栄養士に相談や助言を得られる体制となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染に関するマニュアルは整備され、感染委員会にて必要に応じて見直しをしている。さらに、定期的な勉強会も実施している。利用者に対しての情報提供は、インフルエンザの時期には注意を促したり、手洗いを奨励する程度である。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理用具等の衛生管理のマニュアル作成され、全職員に周知されそれに基づき実践している。食材はメディカルより配送され、すぐに冷蔵庫や冷凍庫で管理し、新鮮な状態で調理され、食材の無駄等はほとんどない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は家庭的雰囲気を意識し季節に合わせた装飾しているが、建物周囲は看板等なくフェンスで囲まれ何の建物か分かりにくく、迷って面会に来る人もある。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、ソファ、畳等を配置し家庭的な雰囲気を保てるよう配慮し、季節を感じられるよう工夫している。また、テレビ、音楽、職員の声・日射し、証明、室内の明るさは利用者にとって適切であるように配慮している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に畳やソファ、廊下には長いすを置き入居者同士で団らんでできるスペースと利用者が1人で過ごせる共有空間がある。喫煙場所は確保されていないが、利用者の希望があれば、安全面等で工夫し対応していきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居の際には、家で使っていた家具などは居室が狭く持ち込めないと、持ってくる利用者や家族は少ないが、寝具、テレビ、冷蔵庫や家族写真を居室に貼ったりしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気し臭いや空気の淀みはなく、ホールに温湿度計を設置し、利用者に合わせた適切な温湿度管理を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差がなく、ホール、トイレ、廊下等に手すりが設置されている。居室の洗面台は車椅子でも使用できるように設置され、鏡も利用者にあわせた高さになっている。利用者の身体状況の変化に応じて環境を整えたりケアを提供していく。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室などの共同場所には表示してあり、居室扉には個々の名札を付けている。利用者の失敗や混乱等がある場合は、全職員で話し合い検討している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に畑があり、利用者と一緒に花や野菜を植え、収穫している。花は施設内に飾ったり、野菜を食事やおやつに取り入れ楽しんでいる。また、天気の良いときは、玄関先で食事をしたり、散歩している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ○ ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域との交流を図るために、村の行事やイベントに参加させて頂いたり、小学校、中学校、保育所の招待を受け運動会や学習発表会の見学等させてもらっている。利用者に喜ばれ、当施設が地域住民に認知されつつあると考えている。また、家族との繋がりや関わりが途絶えないよう、利用者が地域の一員として暮らせるよう支援していきたい。